

「担い手農家等に農地の集積・集約するための現況地図作成」

京都府 八幡市農業委員会

1 農業委員会の体制と市町村行政との連携状況

○ 農業委員	:	14人
○ 農地利用最適化推進委員	:	8人
○ 事務局職員	:	3人
○ (関係団体名)	:	京都やましろ農業協同組合八幡市支店
○ 市町村行政との連携状況	:	市農業振興課職員
も会議には出席し、全体の司会進行をしている。		



2 地区の特徴、状況、課題

- 八幡市は、大阪府と京都市の都市部に挟まれた地域
- 都市近郊・消費地という立地条件を生かした農業経営が展開されている。
- 圃場整備された農地は担い手農家等に集積されているが、未整備農地は集積されていないので今後担い手農家等に集積していくのが課題

3 委員による継続した話し合いの取組内容

- 八幡市では地区連絡会議を八幡地区、都々城地区、有智郷地区の3地区で開催。
- 3地区とも会議を3回開催しており、年度末にさらに1回開催する予定。
- 会議の参加者は実行組合や担い手農家等で地図を囲みながら話し合いをした。
- 担い手農家等が耕作している農地を担い手農家等別に色分けした物を地図を行政側で作成。
- 2回目の会議で地図に現在耕作している人等を記入してもらい、現況地図を精査。
- 3回目の会議では、2回目の会議で作業した現況地図を参考に再度、行政側が作成した現況地図を囲みながら、実際の農地集積状況や地域農業の現状を把握。

4 成果

- 現況地図を作成したことにより現在の担い手農家等の農地の利用状況、農地集積・集約、また各地域の農業の現状を把握。
- 今後は、現況地図を利用して担い手農家等への更なる農地の集積・集約化を目指す。
- 中間管理事業による農地の貸借制度を担い手農家等や地権者に周知する方法を関係機関と協議し、連携して準備を進める。

※事例候補（地区連絡会議の単位が望ましい）の選定や作成にあたっては、農業会議の現地推進役と相談してください